

「トランプ大統領再登板と欧州の混迷」

土田 修（ジャーナリスト、ル・モンド・ディプロマティーク
日本語版理事・編集員）

トランプ大統領の再登板で世界は混迷を深めている。トランプ氏が欧州の安全保障から手を引く可能性があることから、欧州は「ロシア脅威論」を盾に大規模な再軍備計画を進めている。「戦争モード」に入った欧州で、フランス左派は分裂の度合いを深め、「極右」はトランプ氏再選に勢いづいている。そのトランプ政権を思想的に支えているのは欧州「極右」が源流とされる米国テクノロジー右派だ。フランスの月刊紙ル・モンド・ディプロマティーク（ディプロ）を元にトランプイズムと国際情勢を読み解く。

はじめに

マクロン大統領のパレスチナ国家承認の衝撃～マクロン風ドゴール主義への回帰か？

1. ディプロに掲載された 3 つの記事

- ①「再軍備に走る欧州」～ディプロ日本語版 2025年4月号
- ②「無理矢理のウクライナ停戦が意味するもの」～ディプロ日本語版 2025年4月号
- ③「統合欧州のための戦争という口実」～ディプロ日本語版 2025年6月号

2. 欧州再軍備計画に翻弄される左派

3. 昨年6月、欧州議会選挙で躍進した「極右」勢力によるトランプ氏礼賛

4. 「欧州は核戦争に近づいている」～ジェフリー・サックス氏の発言

5. トランプ政権を思想的に支える米国テクノロジー右派

- ・「カウンターエリート」と呼ばれるピーター・ティールとカーティス・ヤーヴィン
- ・キーワードは「リバタリアニズム」と「反ポリコレ・反デモクラシー」
- ・フランス哲学者ルネ・ジラルルの「模倣する欲望」と SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）

おわりに

参政党の躍進とカウンターエリートとの類似点～SNS 選挙とポピュリズムの時代に出現する徒花（あだばな）

文化講座・参考文献

- ①『さらば偽造された大統領 マクロンとフランスの特権ブルジョワジー』ホアン・ブランコ 著、杉村昌昭・出岡良彦・川端聡子訳、岩波書店
- ②『戦争と西洋』西谷修著、筑摩書房
- ③『現代史の起点』塩川伸明著、岩波書店
- ④『NATO 冷戦からウクライナ戦争まで』村上直久著、平凡社新書
- ⑤『アフター・ヨーロッパ』イワン・クラステフ著、庄司宏訳、岩波書店
- ⑥『アメリカの新右翼 トランプを生み出した思想家たち』井上弘貴著、新潮選書
- ⑦『でもなぜ、トランプは支持されるのか アメリカ地殻変動の思想史』会田弘継著、東洋経済新報社
- ⑧『カウンターエリート』石田健著、文春新書
- ⑨『ポピュリズムに揺れる欧州政党政治』パスカル・ペリノー著、中村雅治訳、白水社文庫クセジュ
- ⑩『となりの陰謀論』鳥谷昌幸著、講談社現代新書